

ヒト中心のまちなかをつくるプロジェクト

!OPEN! NUMAZU

2023

実施結果



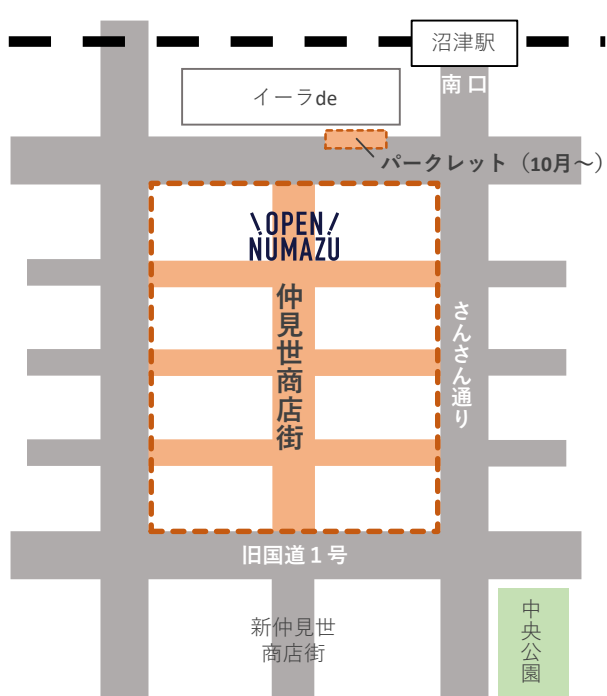
実施概要

【期間】

令和5年7月14日（金）～12月26日（火）

【場所】

沼津仲見世商店街周辺



\OPEN/NUMAZU weekend 2023	
第1回	7/14.fri～16.sun テーマ：ミュージック
第2回	8/18.fri～20.sun テーマ：ライフウェア
第3回	9/15.fri～17.sun テーマ：シネマ
第4回	10/20.fri～22.sun テーマ：アート
第5回	11/17.fri～19.sun テーマ：ブック
第6回	12/8.fri～10.sun テーマ：クラフト

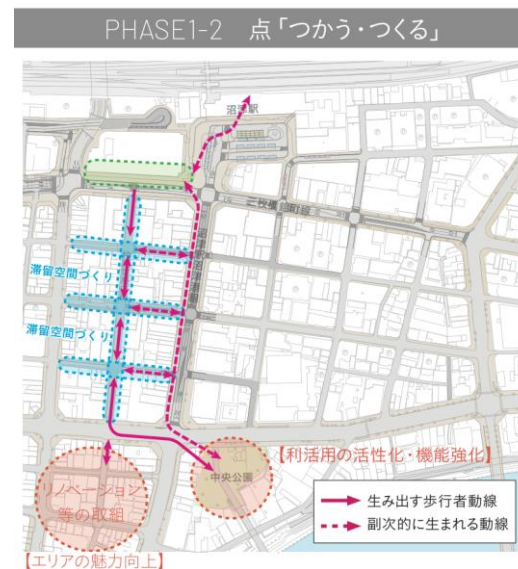
【内容】

- 昨年度の取組で生まれた風景の定着を目指し、**誰もがリビングのように自由にくつろげる空間を常設**。
- まちなかへの来訪と様々な事業者が参加できるきっかけづくりとして、各月3日間、**月替わりのテーマに基づくイベントを開催**。（OPEN NUMAZU Weekend 2023）
- 上記の取組の波及を狙い、**取組に賛同いただける周辺店舗に対してイス等の什器を貸し出し**。

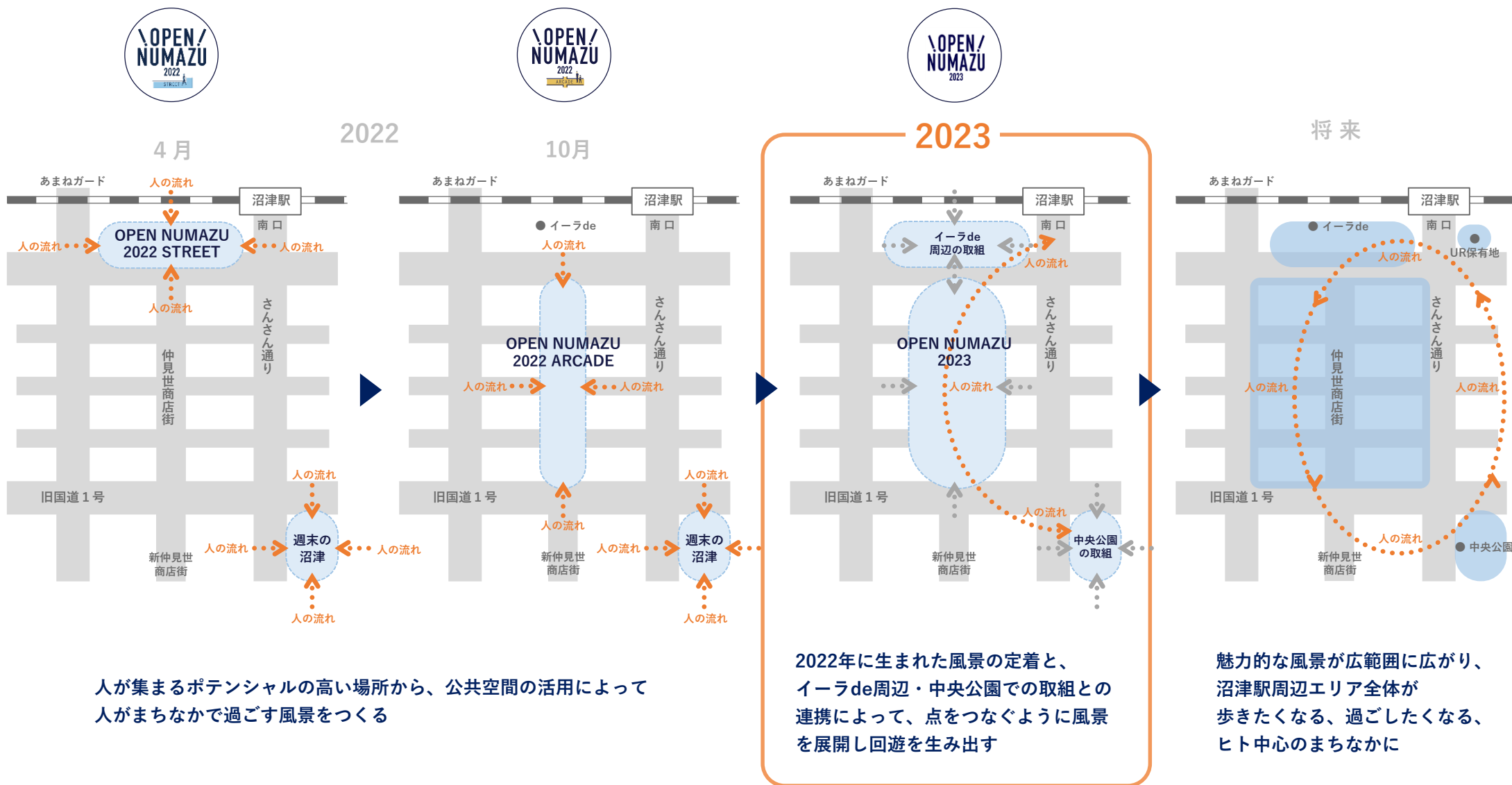
【目的】

まちづくりシナリオで示すPHASE 1-2として、以下の3つの事項を目的にヒト中心のまちなかの実現に資する公共空間の活用を実践。

- 目的1 **まちなかへの来訪・滞在を誘発する**
- 目的2 **市民のまちの変化に対する期待及び地域の公共空間利活用に対する機運を醸成する**
- 目的3 **ヒト中心のまちづくりに関わる人の裾野を広げる**



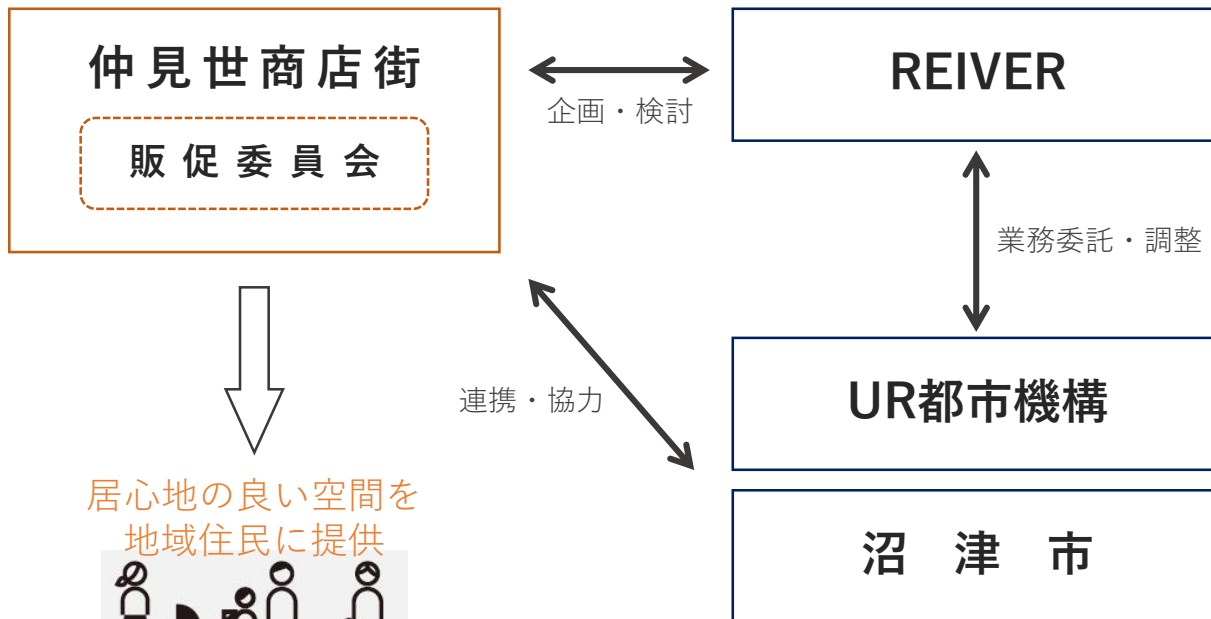
【OPEN NUMAZUの展開イメージ】



実施体制

OPEN NUMAZUの実施業務を沼津市内の事業者である合同会社REIVER（レイバー）が受託し、仲見世商店街・UR都市機構・沼津市が協働して実施。

滞留空間の設置位置や設え、滞留を促すきっかけづくり等について、4者で定期的に打合せ・意見交換を行い、仲見世商店街が歩きたくなる、過ごしたくなる場所となるよう、検討を進めた。



- 沼津市戸田で宿泊施設や珈琲焙煎所も運営する建築設計事務所。
- 沼津市の空きビルを活用したまちなか居住促進事業の先導モデルケース支援業務も受託しており、これまでにさんさん通りの“旧かとう靴店”や、仲見世商店街の“丸天ビル”などで実施。

OPEN NUMAZUを通して試行した取組の定着を目指す

⋮

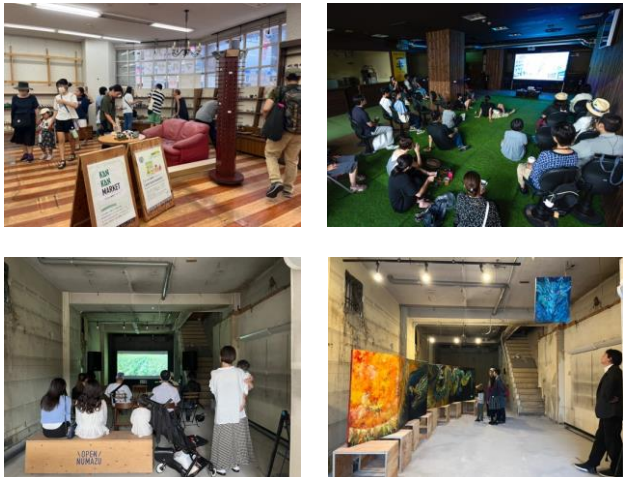
周辺エリアへの波及（沼津駅周辺、イーラde周辺、大手町商店街、駅前名店街...）

空間づくりの概要

- ① イス・テーブル・植栽等をレイアウトしたままとまった滞留空間をつくり、この空間の存在が浸透することを狙い、半年間常設。



- ② Weekendにおける出店・ワークショップ等は、来訪が滞在へとつながることを狙い、くつろぎスペース内もしくは隣接した位置で実施。
- ③ 風の影響を受けやすい一番街以北の街区は、Weekend実施時のみイス・テーブルを設置し、通りのくつろぎスペースを拡張。
- ④ 通りの回遊を促すため、空き店舗も活用しながらWeekendのコンテンツを展開。



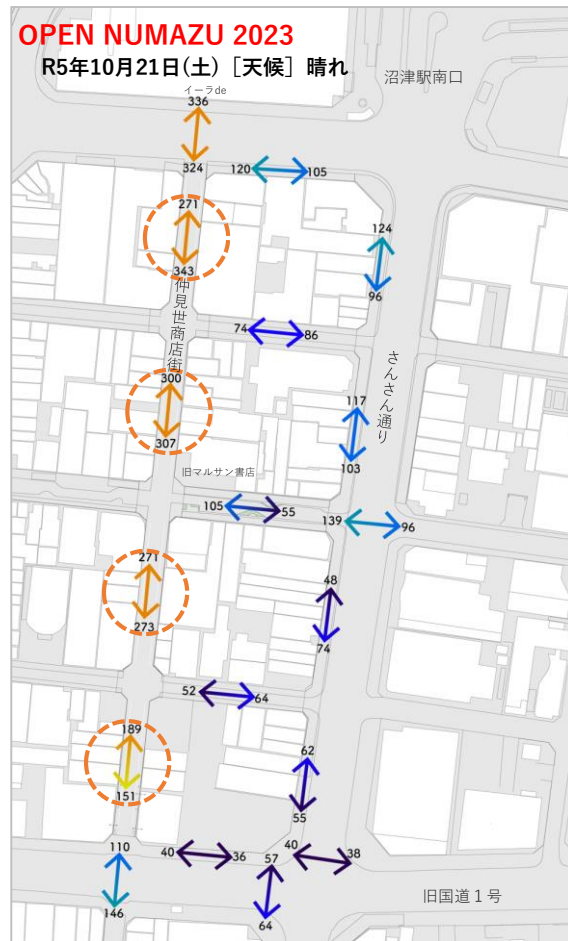
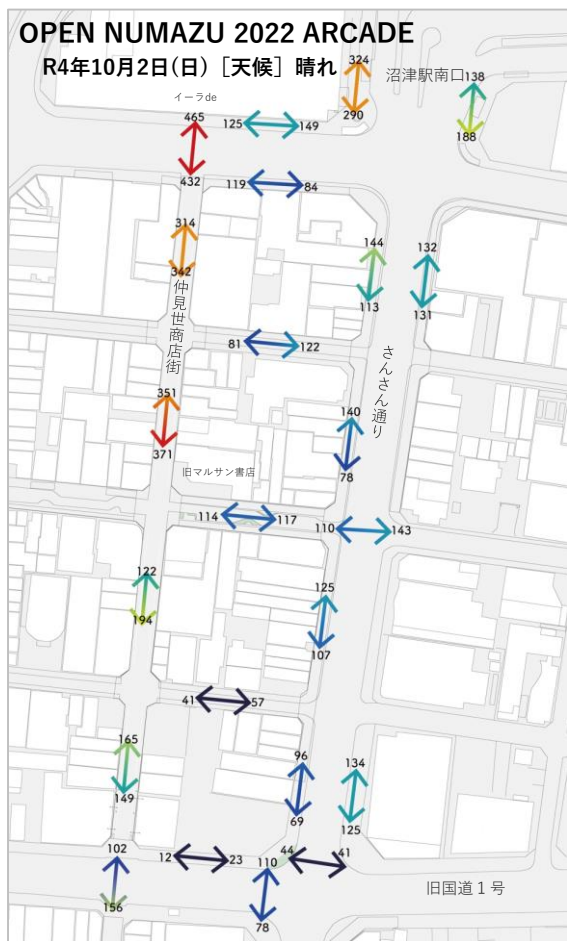
実施結果 ① まちなかへの来訪・滞在を誘発する

ゲートカウント調査

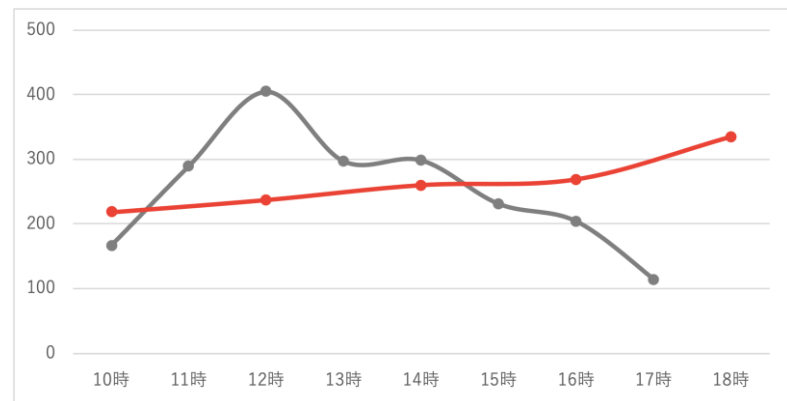
各地点で5分間にそこを通過する人数をカウント。10:00~18:00の2時間おきに実施した計5回の平均値を算出し、1時間あたりの人数に換算。

仲見世商店街の歩行者通行量が昨年度のOPEN NUMAZU実施時と比べて約**1.1**倍、通常時と比べると約**1.5**倍に増加

【歩行者通行量分布】



【仲見世商店街の平均歩行者通行量の時間帯別変化】



※ パルナード（南北通り）の4地点の平均
 ※ 2022は10:00~17:00の各時間帯で計測



実施結果 ① まちなかへの来訪・滞在を誘発する

スナップショット調査

調査員が目視により、滞留者の分布及び行動を記録。10:00~18:00の2時間おきに計5回の観測を実施。

仲見世商店街の滞留者数が昨年度のOPEN NUMAZUと比べて約**1.1**倍、通常時と比べると約**2.2**倍に増加

【滞留者分布】

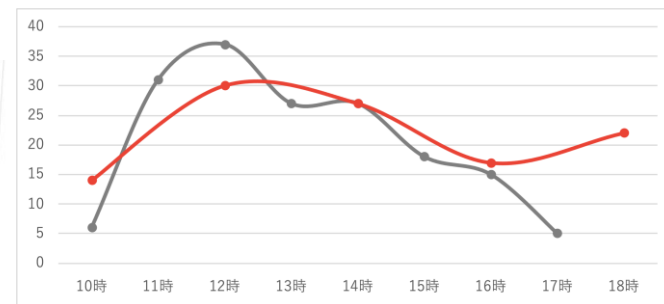
OPEN NUMAZU 2022 ARCADE : R4年11月4日(金) [天候] 晴れ

滞留者数 座っている人 → 平均 6.4人/回

立ち止まっている人 → 平均 14.4人/回



【滞留者の時間帯別人数の比較】



OPEN NUMAZU 2023 (赤線)
OPEN NUMAZU 2022 ARCADE (黒線)

※ 2022は10:00~17:00の各時間帯で観測

OPEN NUMAZU 2023 : R5年10月21日(土) [天候] 晴れ

滞留者数 座っている人 → 平均 7.4人/回

立ち止まっている人 → 平均 14.6人/回



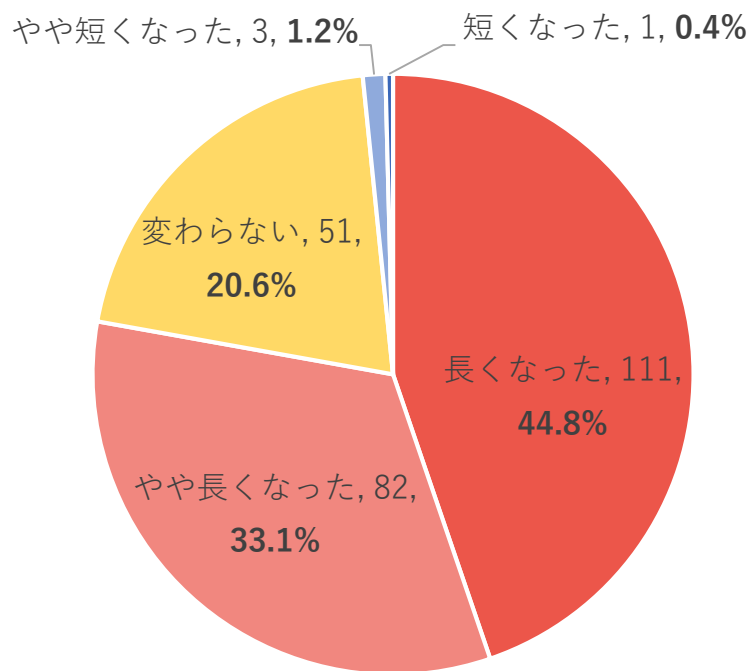
実施結果 ① まちなかへの来訪・滞在を誘発する

来訪者アンケート調査

OPEN NUMAZU会場の来訪者を対象にアンケート調査を実施。(N=248)

来訪者の約**80%**が普段より滞在時間が長くなり、**90%**以上が今回の取組がまちなかを訪れるきっかけになったと回答

【滞在時間の普段からの変化】

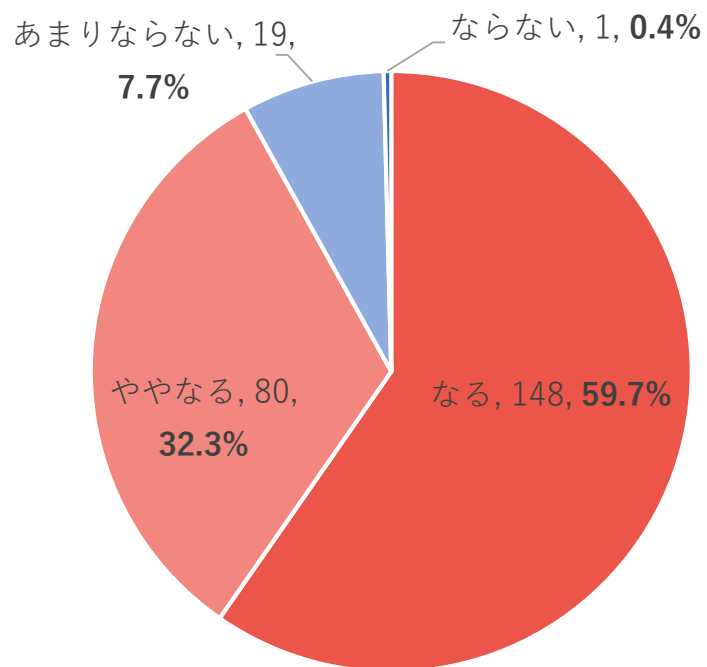


2022 ARCADEとの比較

— 「長くなった」・「やや長くなった」の合計

2022 77.9% ▶ 2023 77.9%

【今回のような空間づくりがまちなかを訪れるきっかけとなるか】



2022 ARCADEとの比較

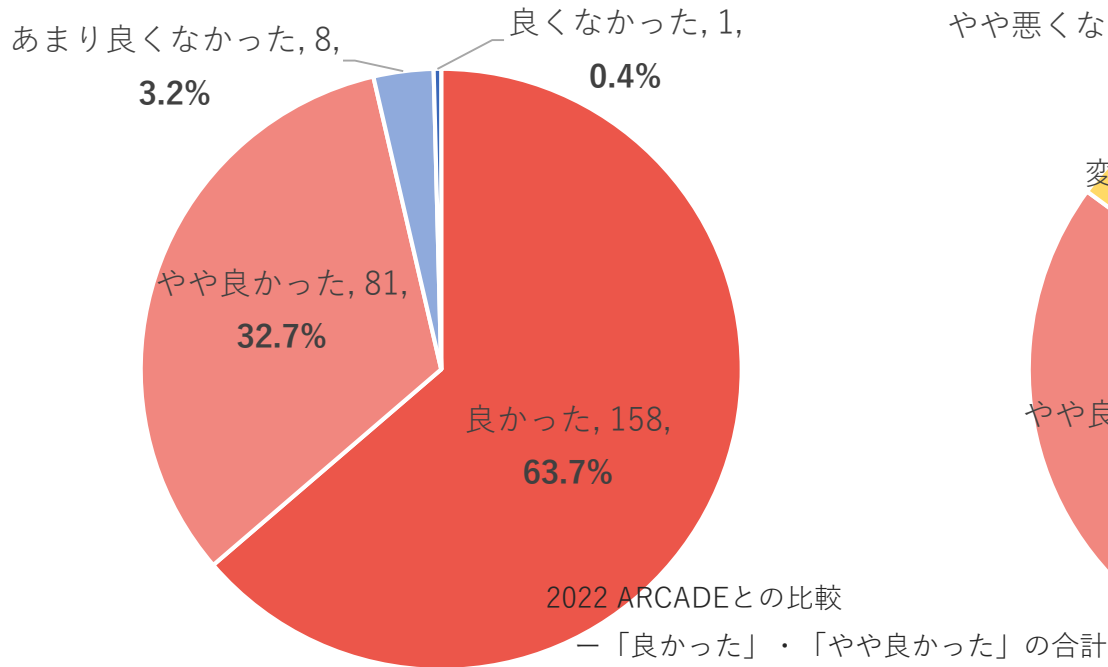
— 「なる」・「ややなる」の合計

2022 91.1% ▶ 2023 92.0%

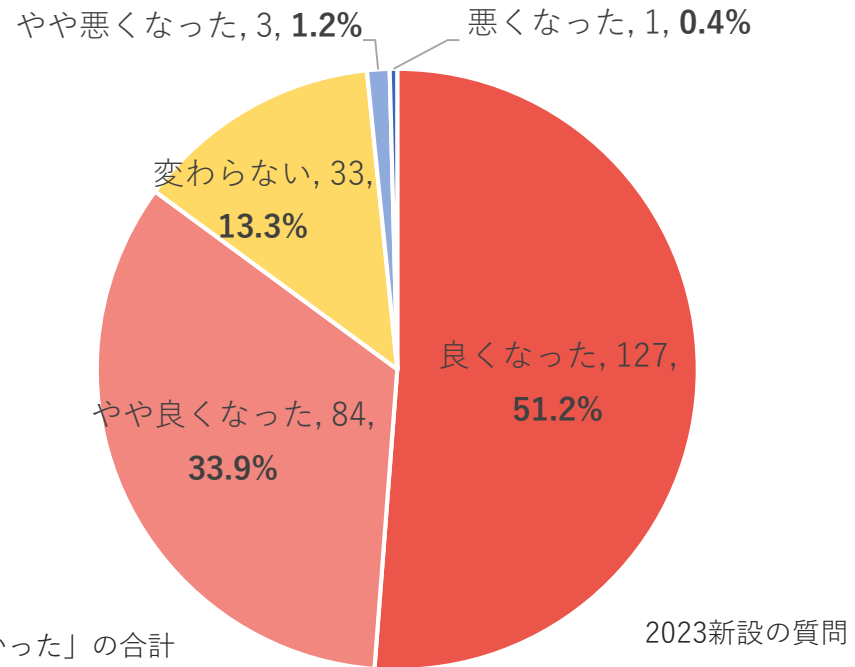
実施結果 ② 市民のまちの変化に対する期待及び地域の公共空間利活用に対する機運を醸成する

来訪者の95%以上が、OPEN NUMAZUに満足しており、約85%がまちなかの印象が良くなったと回答

【OPEN NUMAZUに対する満足度】



【OPEN NUMAZUに訪れ、まちなかの印象に変化があったか】



2022 92.5% 2023 96.4%

【良かった理由】

- 通りに人の姿が見えることで、寄ってみようと思えた。
- くつろぎスペースが常設されたことで、外でゆっくり過ごすことが日常の選択肢になった。
- 歩き疲れたときに周りを気にせず休憩できて助かった。
- 普段は大型商業施設に行くことが多いが、商店街に来るきっかけになった。

【改善点等】

- 新たなプレイヤーの登場で、新鮮味が出ることに期待。
- このような取組を通して、シャッターが減り、新しい店舗が入ると良い。
- 自転車を置ける場所がほしい。

実施結果 ② 市民のまちの変化に対する期待及び地域の公共空間利活用に対する機運を醸成する

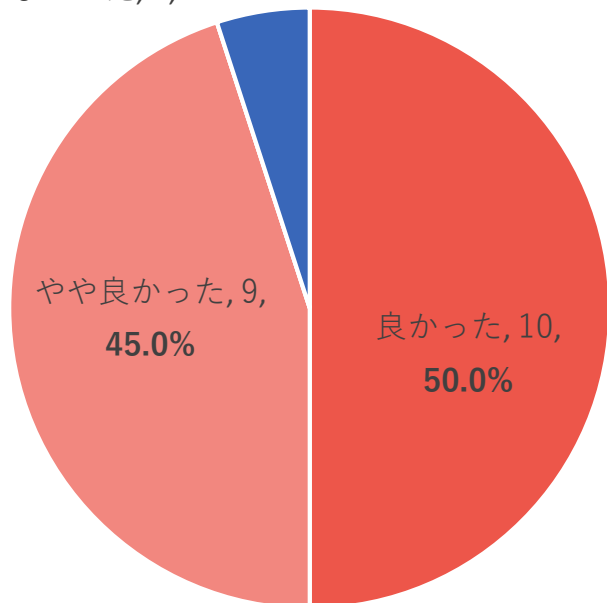
地元商業者アンケート調査

仲見世商店街の商業者等を対象にアンケート調査を実施。(N=20)

地元商業者の95%がOPEN NUMAZUに満足していると回答

【OPEN NUMAZUに対する満足度】

良くなかった, 1, 5.0%



[良かった理由]

- 毎月異なるテーマでイベント等が行われ、様々な層・年代の人が仲見世に訪れるよい機会となった。
- 雰囲気がよく、自店で買ったものを滞留空間で食べている人も見られた。
- まちなかに人の流れができるきっかけになっていた。
- 来街者の笑顔が多くみられた。
- 特にコロナ禍以降は、このような新しい取組は大切であると思う。
- 普段使われていない空間がにぎやかになり良かった。

[良くなかった理由]

- 通行の妨げになっているのでは。
- 目的がわからなかった。

2022 ARCADEとの比較

— 「良かった」・「やや良かった」の合計

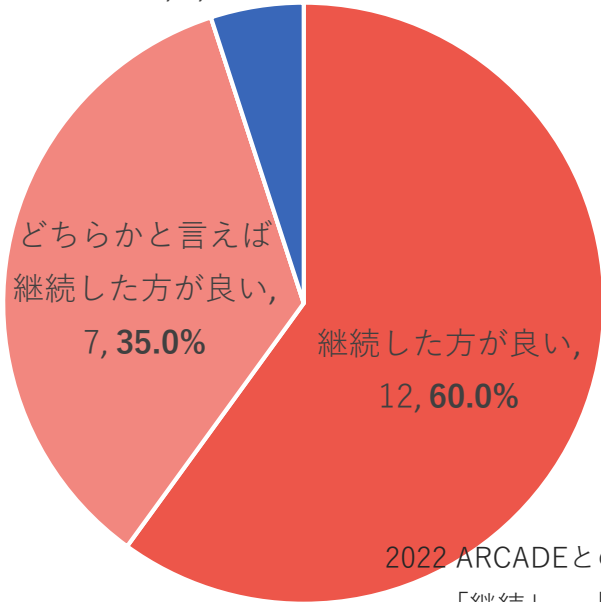
2022	2023
69.3%	95.0%

実施結果 ② 市民のまちの変化に対する期待及び地域の公共空間利活用に対する機運を醸成する

地元商業者の95%が滞留空間づくりを今後も継続した方が良いと感じ、55%が公共空間を活用した取組に携わりたいと回答

【今後の継続した滞留空間づくり】

継続しない方が良い, 1, 5.0%



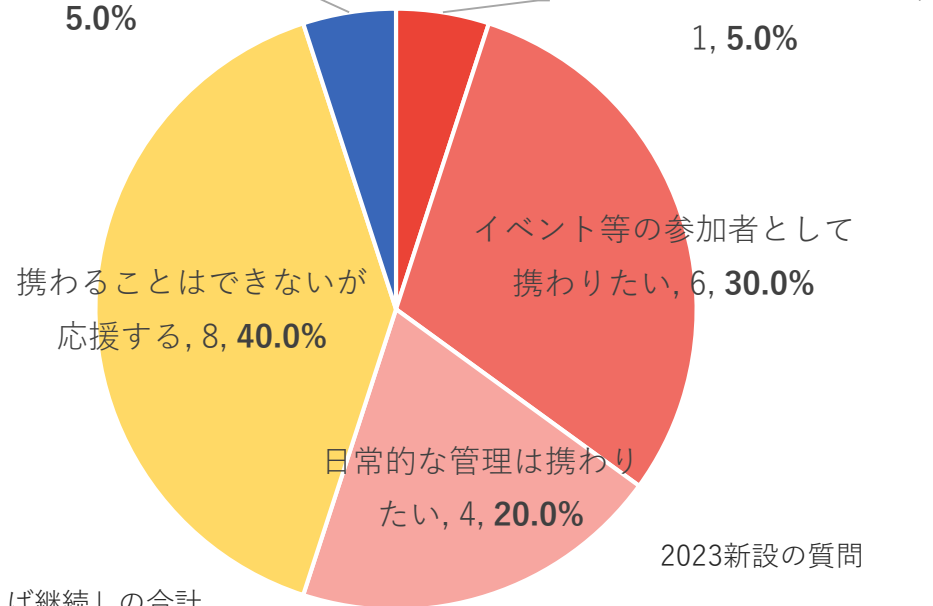
2022 ARCADEとの比較

— 「継続」・「どちらかといえば継続」の合計

2022 84.6% → 2023 95.0%

【公共空間活用への参加】

関わることはできない, 1, 5.0%



2023新設の質問

【継続した方が良いと思う理由】

- 継続することで、多くの人に知ってもらえると思う。
- 買い物客が休んだり、待ち合わせしたりする場所が仲見世にはないので。
- 滞留空間を利用する人が多く見られ、店舗の看板や広告等を見る機会が増えれば、人通りの増加にもつながると思う。
- 年配の方やお子様連れの方が訪れやすくなり、商店街の滞在時間も長くなると思う。

【継続しない方が良いと思う理由】

- 公園をもっと有効活用すべき。

実施結果 ② 市民のまちの変化に対する期待及び地域の公共空間利活用に対する機運を醸成する

OPEN NUMAZUに呼応した沿道店舗の期間中の取組

【地先空間を活用した営業】



【地先空間の客席利用】



【Weekendへの参加】



OPEN NUMAZU終了後の 仲見世商店街による継続した取組

【くつろぎスペースの常設】



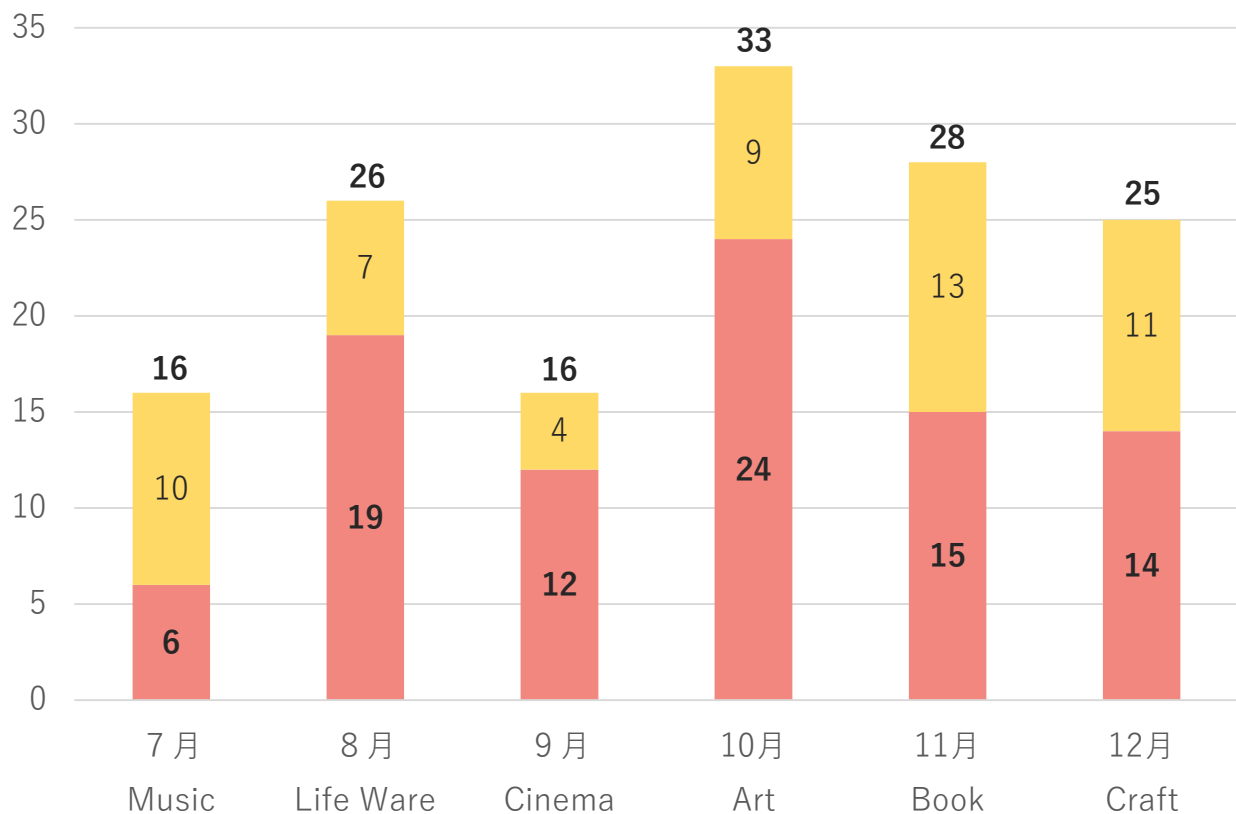
実施結果 ③ ヒト中心のまちづくりに関わる人の裾野を広げる

期間中**109**の事業者がOPEN NUMAZU Weekendに参加し、うち**90**の事業者がOPEN NUMAZUに初参加

2022 ARCADEとの比較 — 参加した事業者数

2022 29事業者
▶
2023 109事業者

【Weekendに参加した各月の事業者数】



■ その月にはじめてOPEN NUMAZUに参加した事業者数

■ その月までにOPEN NUMAZUに参加したことがある事業者数

※ 各月の事業者数の合計「144」は延べ数のため、上部に記載の事業者数「109」とは異なる



Weekendの開催テーマにあわせて、まちに開いたオープンな取組をする人・場所に焦点を当てたタブロイドを毎月発行

実施結果 ③ ヒト中心のまちづくりに関わる人の裾野を広げる

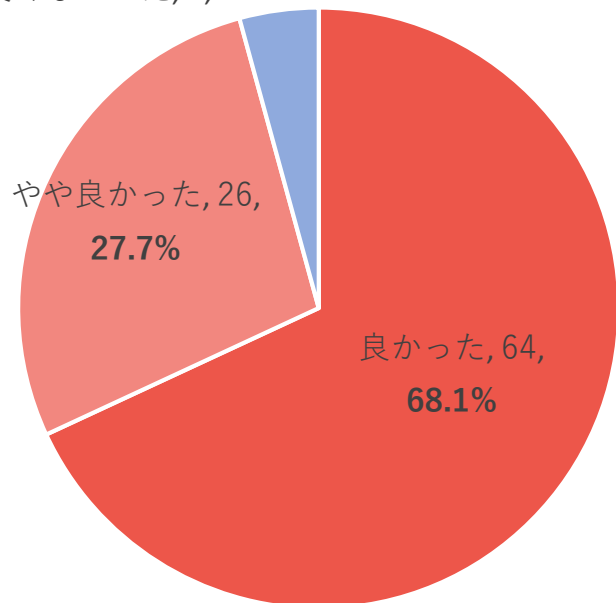
参加事業者アンケート調査

OPEN NUMAZUに参加した事業者を対象にアンケート調査を実施。(N=94)

参加事業者の95%以上がOPEN NUMAZUに満足していると回答

【OPEN NUMAZUに対する満足度】

あまり良くなかった, 4, 4.3%



【良かった理由】

- 初めてのお客さんにもたくさん足を止めてもらえ、これまでとは異なる客層の人にも自店を知ってもらう良いきっかけになった。
- 他の参加者との交流が深まり、今回だけではなく今後にもつながりそうな期待が持てた。
- 演奏やライブなど出店以外のコンテンツもあり、出店側も楽しかった。
- 商店街が元々持つ雰囲気と新しい取組が無理なく共存できていて、他のイベントにはない時間の流れを感じた。
- お客さんもゆったり過ごしていて、ふらっと出かけた日常に溶け込んでいる感じがした。
- 普段使われていない空間がにぎやかになり良かった。
- たくさんの方が行き来していて、呼び込みをしなくても自然と立ち寄ってもらえた。

【良くなかった理由】

- 物品販売には少し出店時間が短かった。
- 滞在する人と出店ブースへ向かう人の動線が交錯することがあった。
- 市民や商店街の人たちの関心がより高まってくると良い。
- 人通りが少ない時間帯があった。
- たまたま通りかかった人に何をやっているのかを伝える工夫が必要。

OPEN NUMAZU 2023で生まれた風景



園科医院
055
951-6480

祝 沼津仲見世 夏祭り

NUMAZU CITY 100th Anniversary
Rotary

--	--

OPEN NUMAZU 2023で生まれた風景



OPEN NUMAZU 2023で生まれた風景



OPEN NUMAZU 2023で生まれた風景



OPEN NUMAZU 2023で生まれた風景



Book



Craft



OPEN NUMAZU 2023で生まれた風景

